

各位

株式会社トップカルチャー
 代表取締役社長 清水秀雄
 (コード 7640 東証1部)

トップカルチャー 2011年10月期 第1四半期連結業績

営業利益 前年比 150.4%・経常利益 前年比 141.7%

売上高	9,226 百万円	(前年同期比 96.9%)
営業利益	429 百万円	(前年同期比 150.4%)
経常利益	408 百万円	(前年同期比 141.7%)
四半期純利益	127 百万円	(前年同期比 86.2%)

当第1四半期は、蔦屋書店 部門において、売上高前年同期比は全店で 97.0%、既存店で 97.8%となりました。なお、当社では収益力の強化として、既存店の移転・統合閉店を積極的に進めており、店舗数は前年同四半期末に比べ2店減少しております。

利益面では、コスト効率の改善に取り組んだ結果、営業利益・経常利益ともに前年同期に比べ2桁の増加となりました。また、資産除去債務に関する会計基準適用に伴う特別損失 158 百万円(期初計画織込済)、店舗の統合閉店に伴う特別損失 5 百万円を計上した結果、四半期純利益は前年同期比 86.2%の 127 百万円 となりました。

● 既存店は書籍・文具が好調！レンタルは堅調に推移

主力商品のうち、書籍が既存店売上高前年同期比 102.3%(全店 100.9%)、文具が既存店売上高前年同期比 105.6%(全店 104.3%)と好調に推移し、売上に貢献いたしました。

レンタルは、映像部門において市場全体で単価下落が続いておりますが、客数は前年に比べて増加しており、既存店売上高前年同期比 100.4%(全店 99.2%)と堅調な推移となりました。

● コスト効率の改善により営業利益・経常利益が増加！

今期より新設した営業本部を中心に、店舗収益力の強化としてコスト効率の改善に徹底して取り組んでおります。これが奏功し、業務効率化による人件費の改善、販促方法の見直しによる広告費の低減、備品消耗品費等の削減等に繋がり、販管比率は前年同期比 1.3%の改善となりました。

その結果、営業利益は前年同期比 50.4%増加し、429 百万円、経常利益は前年同期比 41.7%増加し、408 百万円 と大幅な増加となりました。

● 2011年10月期 通期連結業績予想 (2010年11月1日～2011年10月31日)

2011年10月期は、2店の出店を予定しております。引き続き原価率の改善とコスト効率の見直しにより、大幅な収益体質の改善を図ってまいります。

このことから、売上高 35,000 百万円(前年同期比 103.3%)、経常利益 1,100 百万円(同 112.6%)、当期純利益 460 百万円(同 101.0%) を予想しております。

1. 連結業績の概要

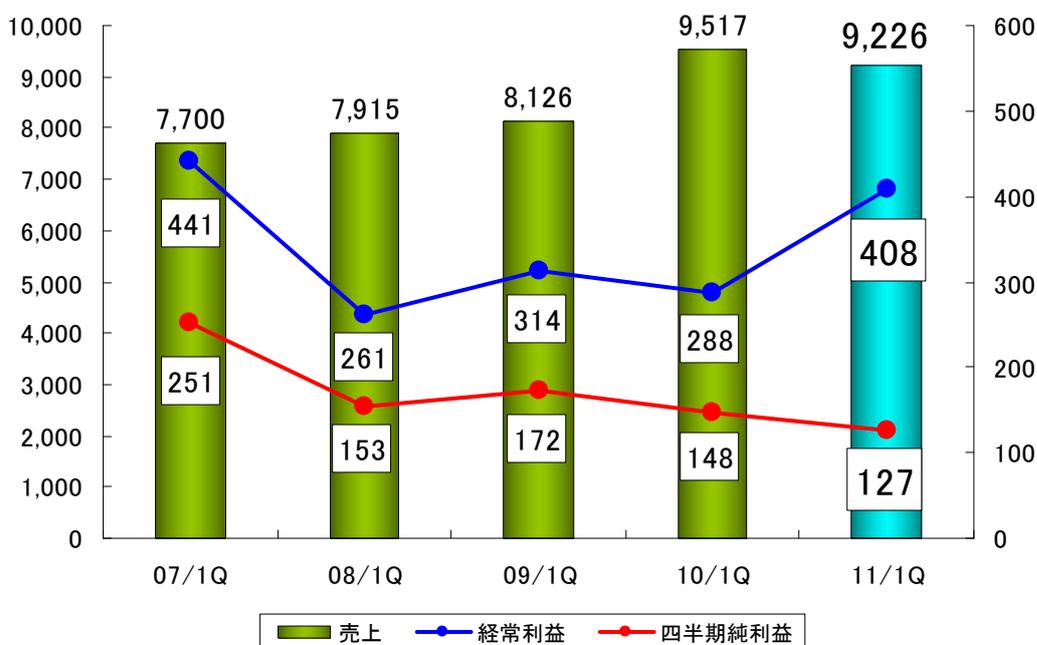
【連結サマリー】

(百万円)

	2010年10月期 第1四半期		2011年10月期 第1四半期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	9,517	100.0	9,226	100.0	96.9
売上総利益	2,890	30.4	2,842	30.8	98.3
営業利益	285	3.0	429	4.7	150.4
経常利益	288	3.0	408	4.4	141.7
四半期純利益	148	1.6	127	1.4	86.2
EPS(円)	12.38		10.67		86.2

売上高(百万円)

経常利益
当期純利益(百万円)



【蔦屋書店部門サマリー】

(百万円)

	2010年10月期 第1四半期		2011年10月期 第1四半期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	9,178	100.0	8,899	100.0	97.0
売上総利益	2,808	30.6	2,750	30.9	97.9
営業利益	270	2.9	403	4.5	149.1
経常利益	293	3.2	402	4.5	137.1
四半期純利益	154	1.7	127	1.4	82.3
EPS(円)	12.87		10.59		82.3

2. 商品別売上高の状況

- ・ 書籍は、売上上位商品の充足率の強化を図るとともに定番商品の品揃え強化に努めました。
- ・ 文具は、定番商品の売上が順調であった季節商品の販売体制強化が売上に貢献いたしました。
- ・ レンタルは、映像部門で単価下落が続いていますが、客数は増加しており堅調な推移となりました。
- ・ 販売用CD・DVDは、引き続き在庫効率化と商品提案力の強化に取り組みました。

(百万円)

		10年10月期	11年10月期			既存店
		第1四半期	第1四半期		前年比	前年比
		金額	金額	増減額	前年比	前年比
蔦屋書店事業	書籍	3,705	3,739	34	100.9	102.3
	レンタル	2,017	2,000	△16	99.2	100.4
	文具	683	712	29	104.3	105.6
	販売用CD	982	832	△150	84.7	86.3
	販売用DVD	648	616	△32	95.0	96.2
	その他	1,140	998	△142	87.5	
	計	9,178	8,899	△279	97.0	97.8
その他	338	326	△12	96.4		
合計[連結]	9,517	9,226	△291	96.9		

※店舗数は前期が73店舗に対し、今期は71店舗と2店舗減少しております。

※当第1四半期より、会計基準の変更に伴い、セグメント区分を変更しております。

3. 出店の状況

- ・ 「TSUTAYA 深谷店」は、2011年3月6日(日)に閉店し、「蔦屋書店 熊谷店」へ統合いたします。(2011年3月12日(土)リニューアルオープン予定)
- ・ 第3四半期以降に関東エリアでの新規出店を3店計画しております。
このうち2店は当社最大規模となる超大型複合店舗となる予定です。

グループ合計店舗数 75 店舗 延床面積合計 34,389 坪

(1店当たり 平均 459 坪)

【2011年10月期 出店計画】

	店名	場所	開店日/閉店日
統合閉店	TSUTAYA 深谷店 (蔦屋書店 熊谷店へ統合)	埼玉県	2011/03/06
新規出店	蔦屋書店 新店	群馬県	2011/08(予定)
	蔦屋書店 新店	神奈川県	2011/秋(予定)
	蔦屋書店 新店	東京都	2011/秋(予定)

4. 2011年10月期の業績予想

- ・ 出店につきましては、関東地区において大型複合店舗の新設出店3店を予定しております。
- ・ 引き続き、原価率の改善及びコスト効率の改善に取り組み、大幅な収益体質の改善を図ってまいります。なお、当期純利益については、当第1四半期において、資産除去債務に関する会計基準の適用に伴い、特別損失158百万円を計上しております。

【連結】

(百万円)

	10年10月期		11年10月期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	33,871	100.0	35,000	100.0	103.3
経常利益	976	2.9	1,100	3.1	112.6
当期純利益	455	1.3	460	1.3	101.0
EPS(円)	37.95		38.34		101.0

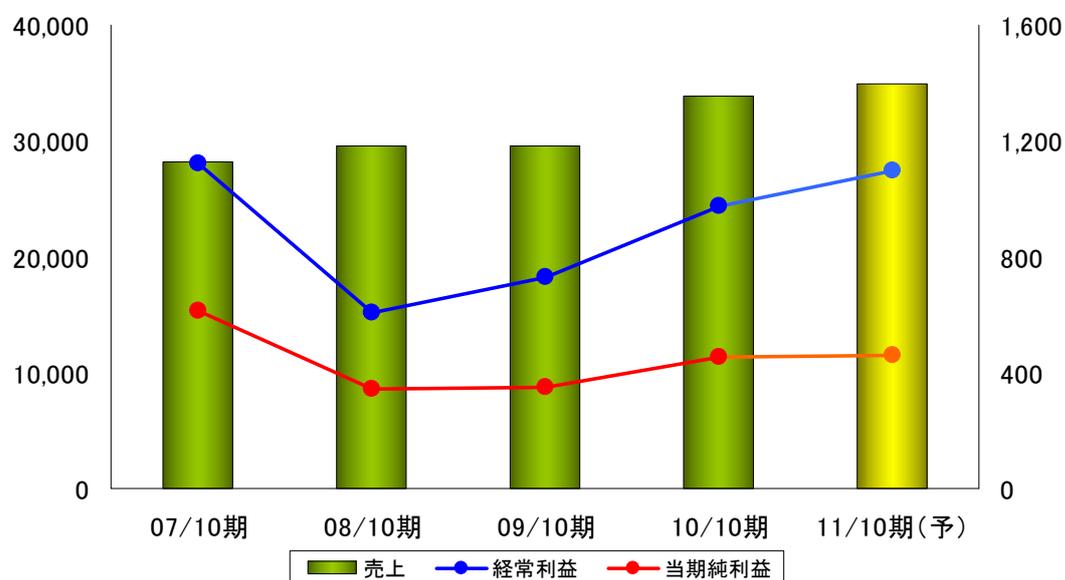
【蔦屋書店部門】

(百万円)

	10年10月期		11年10月期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	32,844	100.0	34,000	100.0	103.5
経常利益	1,007	3.1	1,110	3.3	110.2
当期純利益	584	1.8	477	1.4	81.6
EPS(円)	48.75		39.76		81.6

売上高(百万円)

経常利益
当期純利益(百万円)



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

蔦屋書店

【本資料に関するお問い合わせ先】

株式会社トップカルチャー 取締役管理部長 遠海 武則

TEL: 025(232)0008 / FAX: 025(265)1260

<http://www.topculture.co.jp>